

# 都市再生整備計画(第6回変更)

わくらおんせん  
和倉温泉地区

いしかわ ななお  
石川県 七尾市

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	石川県	市町村名	七尾市	地区名	和倉温泉地区	面積	60.5 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度				

**目標**

**【大目標】和倉温泉まちなか賑わい再生と住民がいきいきと暮らすまちづくり**

目標1 安全で快適なまちなか道路空間づくりを推進し、住む人・訪れる人が楽しく行き交う賑わいのある温泉街の再生に取り組む

目標2 郷土の歴史、文化溢れる地域独自のまち並みを形成、海岸沿いの立地を活かすとともに、温泉街の情緒を創出し、能登観光の拠点にふさわしい魅力あるまちの形成を図る。

目標3 地域が一体となった『おもてなしのまち』づくり

**目標設定の根拠**

まちづくりの経緯及び現況

＜現況＞  
和倉温泉は、今からおよそ1200年前に1羽の白鷺が傷ついた足をお湯で癒している姿を漁師が見つけ温泉が発見されたことが始まりとされている。古くは湯治場として栄え発展していき、鉱泉宿や内湯宿などが建てられた。明治時代に入り、海中の湧き口までを埋め立てて陸続きとして以降、温泉街としての近代化が進んでいる。その後も埋め立ては継続し、海に面する帯状に大型旅館の立地が進み、高層建築物の建ち並ぶ温泉観光地となっている。  
温泉地として発展を続けてきたが、近年は旅行ニーズの多様化などにも影響されて、観光客の入込み者数が平成3年の年間151万人をピークに減少を続けており、現在では年間96万人と落ち込んでいる。また、観光客等がもたらす経済効果は、それぞれの旅館のみで完結しており、まちなかへの波及効果は少ない。あわせて、商店街の売上減少も著しく観光産業に大きな影響を及ぼしている。そのため、和倉温泉の活性化に向けて、近年の観光の質的变化などに対応した取組みが必要となっている。

＜まちづくりの経緯＞  
和倉温泉は、平成3年から平成12年まで和倉温泉旅館協同組合、和倉温泉観光協会が中心となり、新たな時代に対応した温泉地づくりのあり方を検討してきた。また、平成14年から現在までに市において、和倉地区の代表者からなるまちづくり委員会を設置、地元住民を巻き込んだワークショップなどを開催し、和倉温泉の位置付けや現況・課題を踏まえた和倉温泉のまちづくりの方向性と、実現に向けての方向性について検討を行った。  
これらの活動から、和倉温泉のにぎわい再生にむけて、郷土の歴史や文化、風光明媚な自然景観、豊富な温泉などの地域資源を活用した“歩いて楽しむ”温泉地づくりは、共通の認識となっている。

課題

- ・旅館やホテル、商店街が互いに連携し、温泉本来の効能をまち歩きとともに楽しめる環境づくりを進めていく必要がある。
- ・郷土の歴史や文化、四季、時間によって変化する七尾湾の景観を、それぞれの旅館、ホテルの室内からでなく、まち歩きの中で充分堪能できる環境を整備していく必要がある。
- ・地域住民や来訪者がまち歩きを楽しめる基礎的条件(安全な歩道空間、日照を遮る緑、休憩施設など)を整えていく必要がある。
- ・おもてなしの心が感じられる温泉街を地域の創意工夫で形成していく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

【七尾市まちづくり計画<新市建設計画>】(七尾・鹿北合併協議会 平成15年11月)  
本計画では「～人が輝く体感交流都市～」を将来像とし、和倉温泉地区は市の経済基盤を支える温泉街の再生施策を官民一体で取り組み、温泉観光地としての風情や美しいまち並みの創出のために、まちづくりを推進し、まち並み景観の向上を目指すとしている。

【七尾市都市マスタープラン】(七尾市 平成10年3月)  
本プランでは「未来に受け継ぐマリンエコポリス」を将来像とし、和倉温泉地区はゆけむり文化交流拠点として位置付けられ、拠点施設や商業店舗が集まる湯元界隈のまち並みの整備、山の手の自然・歴史資源の活用などを図り、観光客がそぞろ歩きを楽しめ、しっとりとした情緒にひたれる温泉街、住民が誇れるまちを形成し、能登観光の拠点にふさわしい魅力あるまちづくりを進めるとしている。

【和倉温泉 観光まちづくり基本計画】(七尾市 平成18年2月)  
本計画は、「心温まるおもてなし」と「快適な温泉地環境づくり」を進めることによって、来訪者も地域住民もともに楽しみ、喜びや感動がお互いに分ち合える「多彩な交流人口拡大のための和倉温泉の観光まちづくり」を基本理念としており、来訪者と地域住民の双方を視野に入れた地域環境の創造を進めるとしている。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
宿泊者数	人／年	和倉温泉の年間宿泊者数	温泉街としての情緒を創出、安全で快適なまちなか空間を形成することにより、まちの魅力増加につながり入込み客数の増加に寄与する。	900,000	940,000
総湯入込み客数	人／年	総湯の年間入込み者数	総湯の改装による魅力の増加で、地域住民、日帰り客の和倉温泉への来街を促がすものである。	200,000	210,000
まち歩き者数(七福神巡り者数)	人／年	和倉温泉の名所に設置されている七福神を巡る歩行者数	まちなかの拠点を歩くことにより、温泉街での滞留・滞在時間の増加を促し、賑わいや消費につなげるものである。	2,000	2,400

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>●安心と快適性を実感できる道路空間の充実を図り、住民と観光客が行き交う賑わいある温泉街 和倉温泉の来訪者が、「温泉」と「食」だけの癒しのみならず、「まち歩き」によって地域固有の自然や地域住民とのふれあい、まちの名所や名物店などを歩いて楽しむことができる温泉街としての基盤づくりを行う。</p>	<p>■基幹事業：道路整備[市道と倉77号線] ■基幹事業：道路修景整備[高質舗装(石畳、カラー舗装)、照明・修景整備、電線類地中化など]</p>
<p>●公園の再整備や観光交流センターなどの整備によって、滞留と交流の拠点づくりで回遊できる温泉街 多くの人に歩いて楽しんでもらうためには、既存の公共施設やまちの名所に加えて、滞留と交流が生まれる新たな拠点づくりを進めなければならない。 来訪者は街の魅力が少なく旅館やホテルで過ごすことが多い現状から、地域特性を活かした既存施設の再整備や観光交流センターの整備による、新たな拠点づくりによって温泉街の魅力を創出する。</p>	<p>■基幹事業：観光交流センター(仮称) ■基幹事業：公園の再整備[和倉中町公園、弁天崎源泉公園] ■基幹事業：広場の整備[和倉緑地広場] □提案事業：和倉温泉まちづくりPR事業 □提案事業：中心商店街再生支援 □提案事業：マリンパーク施設整備</p>
<p>●花と緑、温泉情緒の醸し出しによる魅力創出で、街並みに「おもてなし」を心で感じる温泉街 和倉温泉の旅館・ホテルは海辺に面し、近代的建物が多くを占めており、まちには「ぬくもり」や「おもてなし」を感じるものが少ないことから、地域住民が「花と緑」でまちなかや沿道を装い、地域のぬくもりが伝わる観光地づくりを進める。また、温泉情緒ある街並み整備を進めるための景観計画を策定し、将来を見据えた「ぬくもり」と「おもてなし」が漂う和倉温泉づくりに寄与していく。</p>	<p>□提案事業：沿道景観計画策定</p>

## その他

### ○継続的なまちづくり活動

本地区は、和倉温泉振興協議会(地区の各種団体が構成)が中心となってまちづくり活動を行っており、計画策定にあたっては地区住民の合意に基づき提案され、現在実施されている事業及び計画と整合性を図っている。  
温泉地という地域事情から、温泉街再生の推進役は和倉温泉観光協会や旅館協同組合、商店街のメンバーが中心で、地域活性化に関する主要事業を担っている。また、地域住民は花や緑、美化運動できれいな温泉地活動に取り組んでいる。  
今後も、和倉温泉振興協議会を構成する各種団体が連携を深め、今後の活動を支える体制を強化していくこととなっている。

### ○街並み形成を誘導する方策

中心街の整備や商店街では、温泉情緒や風情を醸し出すことを計画しており、そぞろ歩きにふさわしい街並み景観を形成するため、地域住民とガイドラインの策定に向けた協議を進めている。

□和倉温泉地域イベント事業 キリコ祭り見学バス／よさこい祭り／夏花火／胡弓演奏会等の集客イベントの開催

主体：和倉温泉旅館協同組合

### □和倉温泉地域イベント事業

□和倉温泉まちづくり人づくり事業 まちづくり研修、講演会、講習など

主体：和倉温泉旅館協同組合

□花と緑の温泉地事業 和倉温泉街の花壇づくり、地域全体の美化

主体：和倉温泉旅館協同組合

□旬の和倉温泉情報発信事業 旬の和倉温泉の魅力発信

主体：和倉温泉旅館協同組合

### □和倉温泉まちづくり人づくり事業



### □花と緑の温泉地事業



